

日本共産党 和歌山市会議員

ひめだ高宏ニュース

No.1162

17.8.1

みなさんの願いをまっすぐ市政に届けます。

加太デマンドタクシー実証運行調査

和歌山市交通政策課は、7月25日、加太地区でデマンドタクシー（乗合タクシー）の実証運行調査を行いました。その内容は次のとおりです。

1. 調査目的

交通不便地域の中でも、人口密度が少ない地域や需要の少ない地域の住民が最寄りの駅まで移動するため、予約が入った時のみ運行し、数人が乗り合わせることでできる予約型タクシー制度導入の実証運行を実施し、本格運行での年間運行経費、乗車率、稼働率、収支率の予測を行い、市の補助率などを検討します。

2. 調査内容

加太地区デマンドタクシー

(1) 調査期間 17年8月1日(木)～9月30日(土)の61日間

3. 調査運行計画

(1) 調査運行ルート ①小島住吉と大川と深山と城ヶ崎と加太駅 ②淡嶋神社と海水浴場前と加太駅 ③サニータウン北とサニータウン中とサニータウン南と加太駅

1. 実証運行計画に基づき、予約のある停留所のみを運行し、あらかじめ定められた運行ダイヤと路線を運行する予約型区域運行での調査運行を行い、運行ダイヤ・停留所ごとの乗降人数、道路渋滞や走行環境、停留所周辺の安全性等について調査を行う。

2. 調査内容
加太地区デマンドタクシー

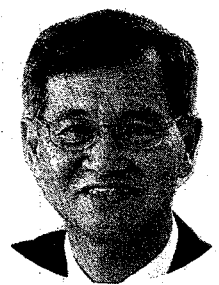
61日間
(3) 調査運行日 全日(土、日、祝日も含む)
(4) 調査運行本数 1系統につき、4往復
(5) 運賃 停留所間で運賃が

乗降します。(1乗車200円、400円)
(6) 停留所 10箇所
(7) 使用車両 7人乗用型小型タクシー車両
4. 利用方法

今週のフツのムタ (その108)

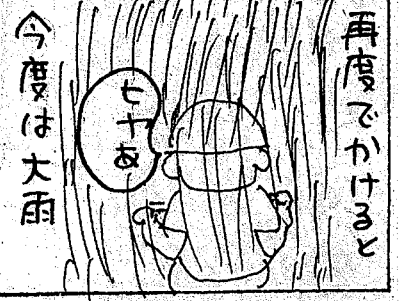
水もしたたるエエ男!!

先週の日曜日の朝、赤旗日刊紙の配達に出て、一つのコースが終わり、もう一つの方へ行く途中、いかに雨がポツリ、ポツリと降り出したので、いったん家に帰り外に干してあった洗濯物を家の中に移したら、雨が止んだようでした。いかに雨だったのか、まあエエ男と、残りの新聞を配りに出たのですが、しばらくすると、また雨がポツリ、ポツリと降り出して来たのです。エエ男、そのうち止むかと思ったのは、止むかでした。ガマーッと前が見えなくなるかと、思ふふらふら降ってきて、しばらく雨宿りをしていると、か、でもこのまま降り続いたら帰れなくなるのでは、などと思いましたが、もうエエ男と、走り出したものの、家たどり着いたときには、全身が濡れて、靴の中も財布の中も水浸しでした。



ひめだ高宏

フツのムタ (945)



- ①予約を入れる 和歌山第一交通(株)の073-452-1235(一)へ電話し、加太地区乗合タクシーを予約することをお伝え、利用日、人数、時刻・乗車停留所・降車停留所を伝える。午前降車予約受付は前日の午後5時まで、午後降車予約受付は当日の午前10時まで。帰りの利用も予約が必要。
- ②利用する 予約時刻に予約停留所から乗車。乗車時に名前と降車停留所を告げ

「核のゴミ」は 日本共産党

「核のゴミ」最終処分場の使用済み核燃料の再処理でウランやプルトニウムを取り出した後に残る高レベル放射性廃棄物。10万年にもわたり強い放



「改憲反対」9条守水「宣伝

8月1日(土)日本共産党和歌山市支部で「憲法9条守水」のプラカードを持ち午前8時30分から半時間程度、6人で宣伝(写真)。私、ひめだはインディマイクで、核兵器禁止条約のこと、改憲阻止・9条守水と訴えました。車から手を振って歩く人も。けこ、暑かった!

- る。運賃は乗車時に運賃手
- に支拂う。
- ③予約の変更・取り消しは1時間前までに連絡をする
- 5.その他
- ・日本地区以外の方も利用できる
- ・予約は利用1週間前から

放射線を出すため、政府はガラスと混ぜて固体にして地下3000mより深い地層に埋めて最終処分するとしています。しかし、地震・火山大国の日本で長期間、安全な状態を保つ場所を見つけるのは困難と指摘されていいます。自治体を持つ方式では一向に進まないことから政府はあらわにめ、

「適地」を示し、政府が個別に申し入れる方式に変えました。原発を今後どうするのかの合意が、核のゴミ処分に向けた国民的議論の前提です。まずは原発の稼働を取りやめ、これ以上危険な負の遺産を増やさないことが、現世代が果たすべき責任です。

潮流

映画「ローマの休日」で一躍有名になった「真実の口」。今も観光客の列は途絶えません。古い教会に飾られている海神の口に手を食いちぎられるという言い伝えがあります。迷信とは分かっていても、なかには手を入ることをためらったり、神妙な顔つきになったり。何かを偽り、真実の扉を開くことに人はなぜしどや恐れを感じるからなのでしょう。▼「これは国民をだます策、いわば詐欺です」。南スーダンに自衛隊を派遣するときに、陸自の元隊員が憤っていました。マスコミから原則の違戦合意があり、戦闘は起きている、と言いつつ、張りアベ政権。戦闘を衝突と言いつつ、換える言いつつ、「ぶげけるな」と▼現時の部隊が作成した日報には「戦闘」という言葉が記されて

いました。その日報を隠蔽した問題で稲田防衛相が辞任しました。特別監察は稲田氏の関与を認めず、非公式の前線は幹部らが指示したといえます。日報「夕方の存在が稲田氏に報告されていたか」とかについてもおいまいです。▼派遣した隊員の命にかかわる記録。国会でも論戦となった取り扱いはいつ防衛相が知らぬ存せぬとは誰もが信じ難い。これまでの言動と重ね合わせても真実の口が開いたとはどうい思えません。▼記憶にない、記録がない。うそを吐く口は、周りにも自身のことをおしよめさせ、顔触れを交えても、露骨に凶が居座っているのは可憐いとかくり返さるばかりです。この国から真実を覆い隠す政権。人間を壊していく罪は重い。

赤旗 日刊紙 3,407円/月